

② 新型コロナウイルス感染症の拡大による高齢者のコミュニケーション等への影響について

○ コロナ禍により人とのコミュニケーションに変化が生じている

内閣官房が令和3年度に実施した「人々のつながりに関する基礎調査」の調査結果を見ると、コロナ禍により、人と直接会ってコミュニケーションをとることが「減った」と回答した割合が6割を超えている。なお、そのうち、約3割が直接会わずにコミュニケーションをとることが「増えた」と回答している（図1-3-2-1、図1-3-2-2）。

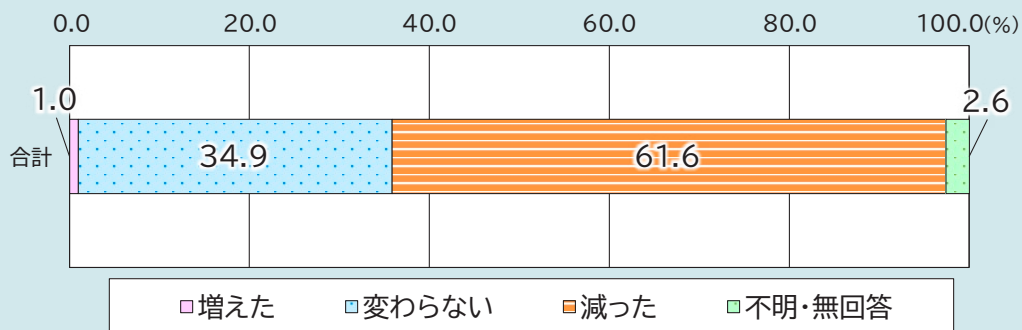
また、健康調査の結果では、コロナ禍前のイ

ンターネットでの医療機関や病気等の情報収集状況を前回（平成29年度）と比較して見ると、インターネットで調べることがある高齢者の割合が大きく増加している（図1-3-2-3）。

さらに、別の内閣府の調査によると「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる」「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」と回答した割合が次第に高くなっている（図1-3-2-4）。

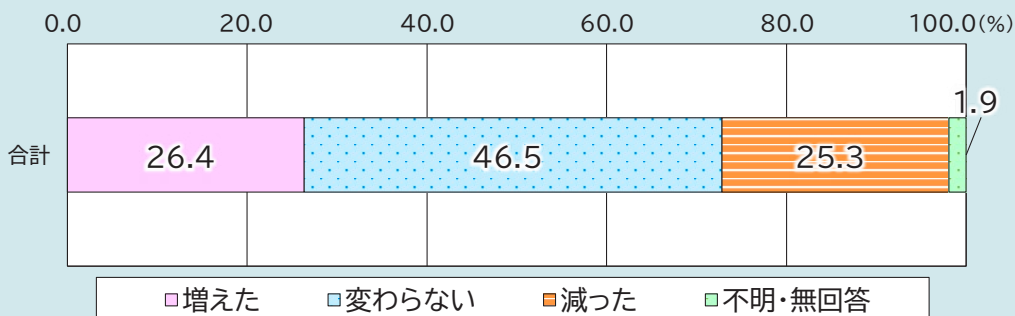
情報機器を利用しない理由について見ると、平成27年度までは「必要性を感じないから」と回答する割合が最も高かったが、令和2年度では「必要性を感じないから」と回答する割合が大きく減少し、「使い方がわからないので、面倒だから」が大きく増加している（図1-3-2-5）。

図1-3-2-1 コロナ禍により人と直接会ってコミュニケーションをとること



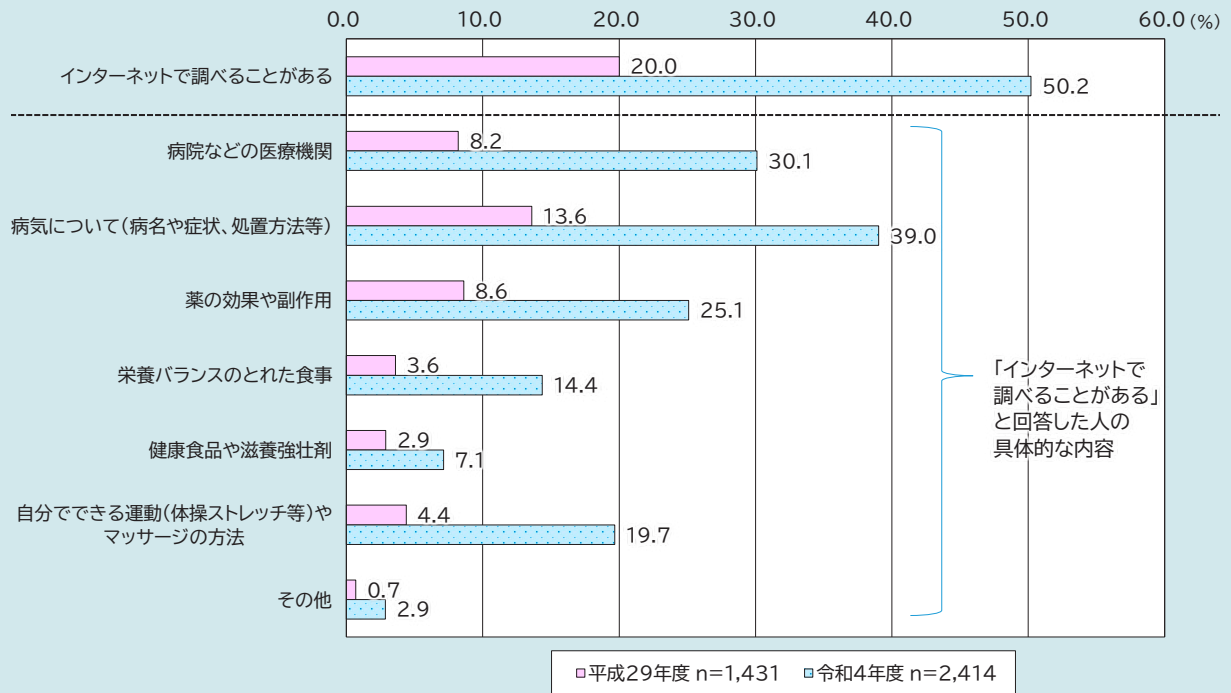
資料：内閣官房「人々のつながりに関する基礎調査」（令和3年）を加工して作成
（注）四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない。

図1-3-2-2 コロナ禍により直接会ってコミュニケーションをとることが減った人のうち直接会わずにコミュニケーションをとること



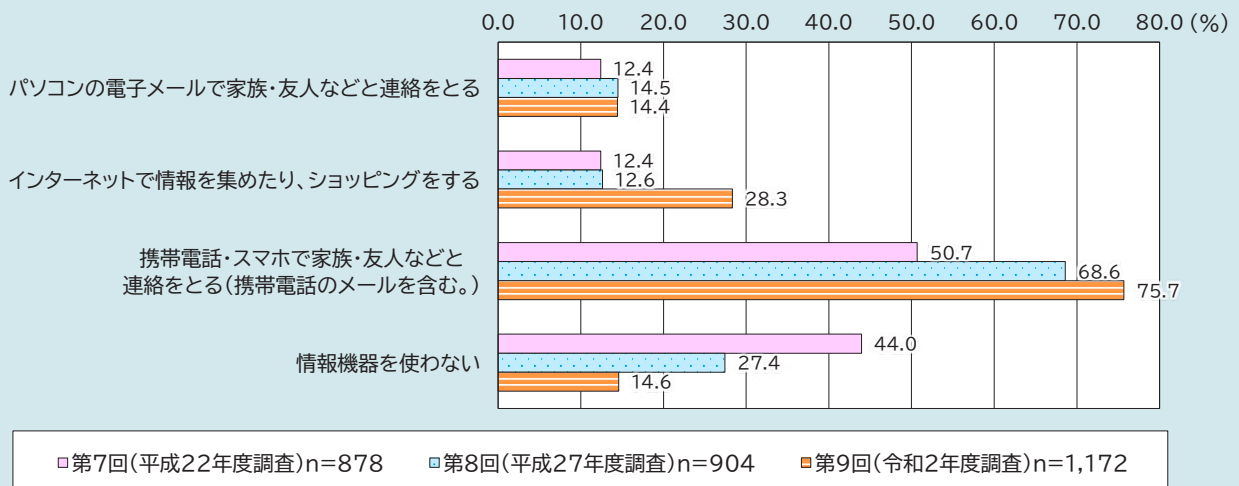
資料：内閣官房「人々のつながりに関する基礎調査」（令和3年）を加工して作成
（注）四捨五入の関係で、足し合わせても100.0%にならない。

図1-3-2-3 インターネットの情報収集状況（複数回答）



(注) 平成29年度調査と令和4年度調査では調査方法が異なるため留意が必要である。

図1-3-2-4 情報機器の利用状況（複数回答）

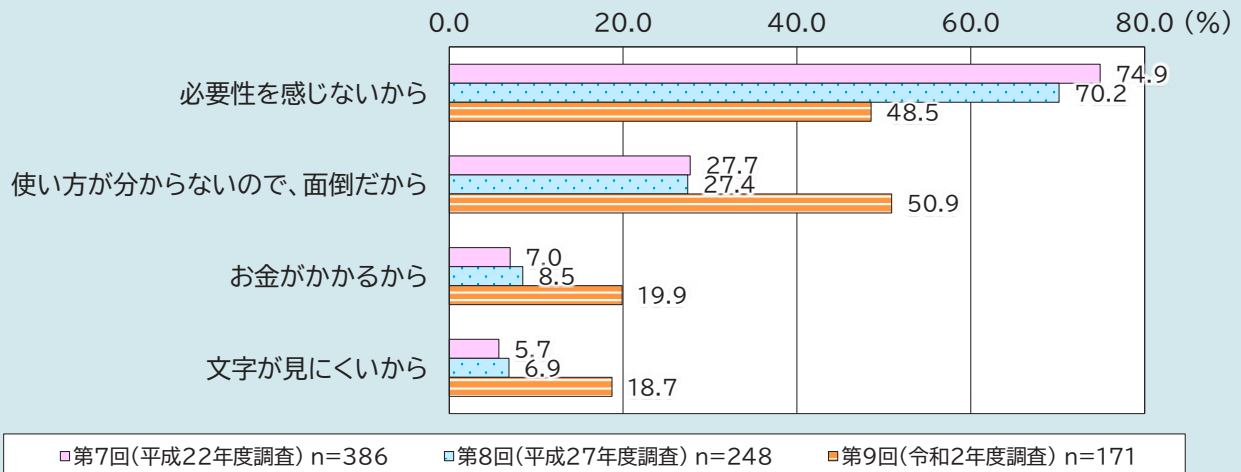


資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（5年ごとに実施）

(注1) 「情報機器の利用内容」の回答項目は、「ファックスで家族・友人などと連絡をとる」「パソコンの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」「携帯電話・スマホで家族・友人などと連絡をとる(携帯電話のメールを含む。)」 「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」「SNS (Facebook, Twitter, Line, Instagramなど) を利用する」「ホームページやブログへの書き込みまたは開設・更新をする」「ネットバンキングや金融取引(証券・保険取引など)をする」「国や行政の手続きをインターネットで行う(電子政府・電子自治体)」であり、「情報機器を使わない」とは、これらのいずれにも該当しない人をいう。

(注2) 第7回(平成22年度調査)及び第8回(平成27年度調査)と第9回(令和2年度調査)では調査方法が異なるため留意が必要である。

図1-3-2-5 情報機器を利用しない理由（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（5年ごとに実施）

（注）第7回（平成22年度調査）及び第8回（平成27年度調査）と第9回（令和2年度調査）では調査方法が異なるため留意が必要である。

3 考察

今回の特集では、高齢者の健康状態、健康についての心がけ、社会活動への参加、生きがいなどに着目し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による高齢者へのコミュニケーションへの影響やインターネットの活用などについて、他の調査のデータも活用しつつ分析を行った。

（1）高齢者の健康について

この1年間に社会活動へ参加した人は、健康状態が「良い」と回答した割合が高くなっている一方で、社会活動に参加したいと思わない理由で最も多いのが「健康・体力に自信がないから」であり、社会活動に参加してよかったこととして「健康や体力に自信がついた」の割合が高くなっていることと併せると、健康状態が良いことが社会活動への参加につながる可能性があり、また、社会活動に参加することで、健康・体力に自信がつき、更なる参加につながるという好循環を生み出すことも可能であると考

えられる。

他方、若いときから健康を心がけている人は、健康状態が「良い」と回答した割合が高くなっていることから、高齢者になる前から自らの健康に関心を持つことも健康につながる可能性がある。

さらに、健康状態と生きがいは非常に強い相関関係があることから、社会参加活動により、健康や体力に自信がつき、それが生きがいにつながることも考えられる。

（2）コロナ禍の影響による高齢者のコミュニケーションの変化について

コロナ禍で外出が制限される中、コロナ禍により、人と直接会ってコミュニケーションをとることが「減った」と回答した割合が6割を超えている。一方、直接会ってコミュニケーションをとることが減った人のうち、約3割が直接会わずにコミュニケーションをとることが「増えた」と回答しており、コロナ禍が高齢者による非対面のコミュニケーションのきっかけと